

私がみた坂の上の雲

—第11弾—

新年号

心臓血管外科

主任部長 中尾達也



新年明けましておめでとう
ございます。新心会の皆様、お
元気ででしょうか？今回は正月
に帰省できず、母親の1周忌法
要にも出席せずして、副院長室
で原稿を書いている心臓血管外
科主任部長の中尾達也です。昨
年は、新心会総会や主催旅行は
出来ず皆様と時間を一緒に過ご
す機会もなく大変残念です。

さて、2021年新東京病院
は52周年を迎え、私もここ松戸
の新東京病院の地に来て12年に
なりました。心臓血管外科です
が、昨年4月から9月にかけて
北中先生と入れ替わりに岐阜か
ら大城先生、宮城から岩橋先生、
神戸から田中先生が来られ池谷
先生、津田先生、久米先生と合
わせて7人で頑張っているとい
るです。

2020年度の実績を報告
致します。昨年1年間の開心
術（人工心肺症例283例、非
人工心肺症例およびオフポンプ
冠動脈バイパス手術6例）が
289例に減少、胸部大動脈ス
テントグラフト術23例で心臓胸
部大血管手術総数は312例で
した（昨年は375例）。胸部
真性、あるいは急性、慢性解離
性大動脈瘤などあらゆる形態の
動脈瘤に対して開始したオーブ
ンステントグラフト手術は、良
好な成績とともに本邦でもトッ

プクラスの症例数（2014年
7月～2020年12月までに
212例）になっています。こ
の国産ステントグラフトの海外
とくに保険償還が決まった台湾
での普及に、台湾の台北や台中
の病院まで足を運び技術指導や
アジア心臓胸部外科学会やイタ
リアでの研究会等大きな場所
での講演に昨年までは積極的に
努めてまいりましたが昨年は
webでの講演や研究会参加の
みでした。低侵襲手術の2本の
柱として腹部大動脈ステントグ
ラフト（59例）、胸部大動脈ス
テントグラフト（23例）治療は
安定した症例数と成績を維持し
た一方で、MICS（右小開胸、
胸骨下部部分切開）での大動脈
弁や僧帽弁手術は17例でした。
柏癌センター呼吸器外科や築地
中央癌センター食道外科と共同
して、心臓や頸部血管、大血
管にまで浸潤した肺癌、縦隔腫
瘍ならびに食道癌を手術、治療
することも引き続き積極的に行
い相互協力体制をより信頼でき
る強固なものにしています。さ
らに、千葉県内でエホバの証人
の心臓病患者に対して心臓手術
を提供できる唯一の施設として
の役割も引き続き務めています。

いつも申しておりますよう
に、手術を受けて頂いたにもか
かわらず残念ながら元気に退院
できなかつた患者さんや御家族
の想いを、われわれ心臓外科ス
タッフが肝に命じてなお一層の
努力をしなければいけないとあ
らためて痛感しております。い
つも心臓血管外科の患者さんに
関わっているすべての病院スタ
ッフ、各部署、各人、一人一人
の御尽力に感謝致しております。
今年も1年、ご指導とご支援の
ほど宜しくお願い致します。

さて、昨年1年間はコロナ
に被いつくされ、みなさんも大
変ストレスな日々を過ごされて
いたのではないのでしょうか。今
は、私がみた坂の上の輝く雲は
見事に唐突に消え去り、下り坂
の先の黒い霧におおわれていま
すが、為政者は国民に子供のよ
うな（子供でもない）言い訳
を繰り返し、国民が行くべき道
しるべを示してくれませんか。1
年前の日本を考えてみてくださ
い。安い給料で大量の外国人労
働者を優先的に日本企業に斡旋
して、大企業は安価な労働力を
求め外国に工場を造ろうとして
いました。横浜にカジノを造る
とかやたらと景気の良い話ばか
りでしたが全部錯覚になり霧の
なかに消えしまいました。この
疫病流行を前に今後の日本経済

は破綻、株価も暴落して輸入も
止まるかもしれません。いま世
界を見渡すと外国はもつとひど
い状態で、このままの状態が続
けば日本人が生き残るためには
出来るだけ自給自足生活を始め
なければいけなくなる日がじき
に来るかもしれません。私の家
はもともと漁師で牡蠣や海苔の
養殖を畑といっしょにやってお
り、その経験を生かせば生き延
びることが出来るかもしれませ
ん。小学生のとき母親から「達
也！畑での海苔の天日干しをち
やんとやりんさい。おてんと様
は見とるんよ」と言われてきた
ことを亡き母親に感謝です。さ
らに、今後はお金の影響が下が
り健康にもっと注意し始めま
す。そうすることでより人間関
係や人の情を重視する世の中
になるでしょう。日本古来から
の価値観である地域社会との繋
がりをおお切にする世の中にな
るでしょう。地域のために地域と
ともに地域ですべてを完結でき
る社会を作らなければなりません。
自分だけ大金を出してワ
クチンを接種し生き延びれば
いいやと考えているとどうでし
ょう。果たして生き延びられる
でしょうか。それよりもそを
つかず、心の安静を保つことが
免疫能を向上させます。心を乱
すワクチンよりも優れているこ



とは自明で、おてんと様さまは何もかもちゃんとみているのです。このことに加え私は外来で、神の国に住む日本人の素晴らしい生活習慣に関して患者さんにお話してきました。宮島の対岸にある私の家の裏地には速谷神社があり、交通安全祈願に車ごとお払いをしてもらうために大晦日から正月の3が日にかけて多くの車が私の家の周りから神社まで数珠繋ぎで並んでいます(車ごとお払いをしてもらうので social distance は十分保たれてはいますが)。神社に行くと、必ず手洗い、お祓い、禊、お辞儀(ハグではなく)、靴を脱ぐ、箸での食事を自然にします。これらは全てコロナ対策になりませんが、古来日本人は疫病対策を習慣としてやってきていたので

修行過程には、感嘆するとても深く聞き入ってしまう教訓が満ち溢れています。今後は日本が本来の物造り国家に戻ることが、暗い霧の中に少しでも明るい道を見つげるための第一歩だと思います。一番大切なことは今も側にあるのです。

コロナ禍のために、患者さんの面会も出来ず死に目にも会えない御家族、ご親族は大変つらい思いをされています。こんなことは不条理と感じていることでしょう。医者も35年やっていれば、多くの人を看取ってきてきたとき、その経緯が不条理であるか、そうでないかは残されたものにとつては大きな禍根を残します。

私の母は、一昨年施設で12月26日に老衰で亡くなりました。母親にアイスクリームを食べさせようとずつとつきつきりで見病していた弟がコンビ二にアイスを買いに行つて帰ってきたら息を止めていなかったそうです。広島で小学生のときに被爆した両親に対して、仕事柄死に目にも会うことが出来ず親不幸な私は、61歳で不条理に亡くなった父親には十分に生きれなかった哀惜の想いと悲しみを、85歳で

亡くなった母親には不条理ではない寂しさとともにコロナが行する前にお浄土に行けたことへの安堵を感じています。さらに被爆2世の私にとつては、東日本大震災と福島第一原発事故で多くの人々が故郷から追われどれほど残酷な目にこの10年であつてきたことか、その不条理さはいかほどのものであつたかはその立場に身を置く者ではないとわかりませんが、想いを寄せることは少なからず出来ません。もし日本全体が放射能で汚染されどこにも住めず、外国に移住しに行つたまま帰国も許されず家族が離れ離れに暮らさざるおえなくなつたらどうでしょう(昔、小松左京原作の日本沈没という小説があり映画化されましたが)。今のコロナ禍での人の死に対しても、個としてだけではなく、皆が想いを馳せる死になるのなら、お浄土に行かれた人の側には多くの人がいてくれたと再認識するでしょう。両親が与えてくれた多くのことが、自分の人生の岐路に立つたとき、私にどの道を行くかの助言をしてくれ、今の自分を創ってくれたと気づく瞬間があります。その時に、私の側にいてくれてありがとうと両親に素直に言えると思います。感謝！感謝です。 合掌

以前御紹介した私の尊敬する南極地研究所の副所長である本吉洋一さん(南極越冬隊長に8回なられ、私も2回越冬参加に誘われたが寒いのでお断り申し上げた)が昨年3月で現役を引退され、4月以降は週の半分を房総のご両親の田舎の実家(以前は本吉さんを慕ういろいろな分野の人々が年一回ここで集い親交を深めた)で過ごされ奥様と季節の野菜づくりに勤しんでおられるとの近況報告を頂きました。近いうちに地元海の幸と地酒、自家製の野菜、薪で沸かしたお風呂で私を迎えていただけるとのこと嬉しいことです。1昨年イタリアポローニヤ大学心臓血管外科教授のバルトロメオ先生にお会いすることが出来ました。

2年に1度もう20年も開催されている研究会に400人余りの参加者(多くの著名な世界的心臓外科医を含め)が、バルトロメオ先生の人間性を尊敬、慕って参加されていますが、本吉さんの人間性と重なってしまい



数年前に松戸の伊勢丹で購入した、手塚治虫の「ブラックジャックの神の手」の絵が正月に家を整理、掃除中に出てきました。「お客さんの白髪の前髪はブラックジャックに似ていますね」とうまいこと財布をくすぐられ、高額でしたが即買いました。この絵を見ると、コロナの時代になつても、人を騙すより気持ちよく騙されるほうが免疫力が上がっていくのかもしれない。じゃんじゃん!